

Title	先端技術企業における研究開発への戦略対応
Sub Title	
Author	相ヶ瀬則夫(Aigase, Norio) 石田英夫
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1983
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1983年度経営学 第248号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001983-0248

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名 相ヶ瀬 則 夫 主査 石 田 英 夫
(ゼネラル石油株式会社) 副査 奥 村 昭 博
所属ゼミナール 奥 村 昭 博 研 矢 作 恒 雄

先端技術企業における研究開発への戦略対応

本論文は近年成長著しい研究開発型ベンチャー企業を対象としている。その目的とするところは、ベンチャー企業にとって重要な研究開発をいかにして成功させているかを調べることにあった。

当初の予定では組織特性があり、ベンチャー企業らしい対応が見られるものと考えていた。しかしながら、ベンチャー企業の組織特性はあまりみられなかった。それはイノベーション特性とか成長企業の特徴といえるものであった。

それよりも、おもしろかったのは経営者の人柄であり、トップ・マネジメントと戦略特性であった。

(1) マネジメント

オーナー型経営であり、自分の経営目標と戦略にあわせた自由自在のマネジメントを行っていた。そして研究開発においては研究員の自由にまかせていた。

(2) 研究開発

研究開発においては、小集団によるチーム制と各人の努力によって、柔軟で不安定な組織が新しい発見に役立ちそうなことがわかった。

(3) 戦略特性

そして、ベンチャー企業は、すき間戦略をとり、新市場の発見で優位に立ち続ける戦略をとっているように思えた。